

「日本の行く末」

拝復 二週間のご無沙汰でした。今週は二つの大きなイベントに出会いました。一つはワール



←本当に幸せな一ヶ月でした、なんと楽しい寝不足

ドカップの決勝戦。スペイン、オランダ両国の世界最高水準のプレーに魅了されました。決勝点となったイニエスタのシュートは非常にレベルが高い。枠を完全に捉えつつ、ボールの浮きを抑えて、しかもGKの泣き所である足元にコントロールした。これが世界のレベル。一方、日本も、よく頑張った。私は1勝1分け1敗でグループリーグ敗退を予想していましたが望外の喜びでした。カメルーン戦での勝利がモメンタムを引き出した。オランダには理想的な0-1の敗戦(デンマークはオランダに0-2)。そのおかげでデンマークは引き分けでは決勝トーナメントに進むことが出来ない事態に。世界の16強に残ると言うのは素晴らしいことです。そんな幸せな一ヶ月間でした。ありがとう、サムライ・ブルー、World Cup! (私が考えるMVPは長友選手でした) 昨日の新聞報道では、一次リーグから通算したポイントで日本は9位にランクされたようです。すごいことです!。FIFAのランキングも25位に(ちょっとインフレ^^)。

一方、参議院選挙は民主党の敗北に終わりました。何も書きたくないくらいに失望しています。民主党にはありません、「ねじれ」状態が続くことが確定的になったことです。

昭和の妖怪の親戚筋ですから(笑) →



長く続いた自民党政治を終わらせるきっかけになったことは何だったか。安倍さん
のときの参議院の大敗北、衆参がねじれたことでした。衆議員が参議院に優越しているのは、首班指名と予算案の可決だけです。自民党は衆議員で2/3を越す議員を有しながら、参議院でのねじれからほとんど何もすることが出来なかった。安倍さん、福田さん、麻生さん、くるくると首班が入れ替わった。今回の選挙で、また同じことが起きてしまった。菅さんがどのくらい持つのかはわからないし、それは本質的な問題ではありません。本質はあらゆる法案や決め事が決まらなくなってしまうところにあります。衆議員を圧倒的多数で通過しても参議院で廃案になる。この繰り返しでしょう。残念ながら民主党は衆議院では2/3の議席を持っていません。亀井さんが社民党に秋波を送り始めたのはこのためです。

この国が未曾有の危機にあることは誰の目にも明らかだと思います。この参議院選挙は難局を乗り切るための政局を作らなければならなかった。それが出来なければ「ねじれ」時代に逆戻りしてしまうのです。このことの重要性を民主党は争点にしなかった。「どんな国家でも、その国民一般の平均水準以上の指導者を持つことはできない」とは欧米の箴言ですが、その通りでした。民主党もそれほど高い望みをかなえてくれる政党ではないということはこの10ヶ月でよく分か

った。当たり前ですよ。そんなスーパーマンのような超人的な政治家や党などないからです。4年間の任期の衆議院で圧倒的な議席を与えながら参議院では第二党に陥落した。菅さんの「消費税」にたいするぶれも痛かった。誰もが増税がやむをえないことはわかっている。ただ選挙で

この人も消費税でこけました(T_T)。



これを政局にすれば勝てない事は歴史が証明しています。政治家は「言葉と数字」が命です。ポピュリズムの人気取りの発言がぶれた。有権者はそこに虚言を直感したのだ、と思います。

野党の顔をうかがいながらでしか法案を通せない。決めるべきことを決め、それをスピード感を持って執行する。これしか日本の出口戦略はないと思っていました。真剣に望ましい政党を選ぼうとしたら、今の日本には該当する政党がありません。民主党は今の「ギリシャ」よりもむしろ「夕張」の現状を争点にすべきだった、と考えます。

いずれにしても結果は出てしまった。ねじれが解消するのは早くて3年後です。衆議院は前倒しの解散がありますが、参議院にはない。3年先を見据えての政局を作れなかった民主党の重大な誤りでした。歴史では「失われた3年間」と後に名づけられるように思います。

ここまで申し述べた私の考えは民主党の政策を擁護するものではありません。誰が担っても、現在の危機を乗り切るとは困難です。それだけに、決断を早くし、すばやい行政を行うとすれば衆参のねじれだけは避けなければならなかった。ユーロを見ればわかります。それぞれの勝手を言い合うだけで議論が全く前に進みません。おのおのが高い独立性を持つ場での合議は結論を出すことに膨大な手間・暇を生じます。これを打開するには小沢さんらによる新たな連立、政党の再編しかありません(T_T)。

今日のお題はここまでの議論にふさわしく、日本の国債、財政がいかに危険水域にあるかについて検証をします。現在までに国と地方自治体が抱える借金＝国債は約900兆円です。国民一人当たり750万円という途方もない金額です。しかし日本の国債はその95%が国内でまかなっており、外国人はわずかに5%しか保有していない。したがってギリシャやハンガリーのようなことになることはない、という説が喧伝されます。担保は1400兆円の個人資産です。しかし、この数字は住宅ローン等の個人の借り入れを含んでいません。実質では1100兆円です。今後、50兆円規模の赤字国債を発行すればわずか、4年で国債の買い手はいなくなります。しかも日本の貯蓄は昨年始めてマイナスに転じました。団塊世代が大量に定年し、貯蓄の取り崩しを始め

本当にこんな世界が現れないとは限らないのですー



たからです。それに加えて「若い世代≒ワーキング・プア」が貯蓄できないから

です。まず国債を買う財源がなくなります。

二つ目に国債は安全資産のように言われています。確かに満期まで持てば額面+利子が返って来ます。しかし、国債の値段は常に上下しています。当然ですが、もし今年、物価の上昇が5%あったとしたら、一年物の国債の価値は5%マイナスとなります。当然ですよね、満期になって償還されても-5%でしか買い物が出来ません。国債の場合は長期金利が目安となります。長期金利が低くなれば、国債の利率も下がります。一方、長期金利が上がれば国債の利率も上がります。

問題はここです。もし1%長期金利が上がったとします。現在の国債の残高は900兆円。つまり年間で9兆円の利払いが新たに生じます。どこにも財源はありません。霞ヶ関の埋蔵金



←あとは、徳川の埋蔵金を本気で探しましょう。M資金も^^;

とやらはすでに2010年度の予算で使ってしまいました。今、ギリシャの国債の利率は10%を越えています。一端「危ない」と思われた国債は数パーセントのボラティリティで動くのです。財務省作成の資料をご覧ください。

▼2013年までの歳入予想と国債発行

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年度
~~~~~					
税収	46.1	37.4	38.7	39.7	40.7兆円
税外収入	9.2	10.6	3.9	4.2	4.2兆円
~~~~~					
収入合計	55.3	48.0	42.6	43.9	45.0兆円

歳出	88.5	92.3	93.9	96.1	100.3兆円
~~~~~					
国債増発	33.3	44.3	51.3	52.2	55.3兆円
国債依存度	38%	48%	55%	54%	55%
~~~~~					

(吉田繁氏 ビジネス知識源より作成)

財務省の2013年度までの歳入の見込みと必要な国債発行金額です。2013年度にはついに国債は発行残高1000兆円の台を突破します。これを何とかするためには税収を伸ばすか、歳出を抑えなければなりません。ところが歳出のうちの医療費と年金は年々高くなる一方。公共事業等を削っても焼け石に水です。だから財務省は確実に取れる税金「消費税」を導入しようとしたのです。消費税は他の税金と違って、とりっぱぐれがない上に補足が非常に簡単です。菅さんが選挙中言っていた「低所得者には還付を」といっていましたが、どうやって補足するつもりなのでしょう。私がもし「高額所得者」であれば買い物を「低所得者」にお願いをします。返って来る「還付」のうちの何割かを「低所得者」にお礼として支払います。ナンセンスな議論でした。

話を国債に戻しましょう。もし、金利が2%上がったら、国債費は年に10%必要です(平均して5年物として計算をします)。実に10兆円の利払いが新たに必要になります。この利子をどうやって支払うのか、国債を発行するしかないのです。**政府が自ら使えるお金を得る手段は二つしかありません。税金か国債です。**

自然の流れです。この時点で日本の財政は破綻します。しかも金額が大きすぎるため、助けに来てくれる人が誰もいません。海外はわずか5%しか持ちませんから、それをさっさと売り払って国際問題としては the end です。G20で3年以内に赤字財政を1/2にしよう、と決めても



←「勝手にしやがれ」日本もジュリーもこのころがピーク(T_T)

日本だけは「勝手にやってください」と言われたのはこのせいです。海外に被害はない。ダムの決壊と同じです。起こったときにはもう誰にもどうにも出来ません。

先日お伝えしましたが、日本の国債のCDSプレミアが上昇しています。0.4%→1.0%。これが何を示しているのかは明白です。海外市場が日本国債に対して警戒心を持ち始めた。

どれひとつとして、日本にいい材料はありません。細かいことは置いておいても**「長期金利が1%上がればほとんどの日本の金融機関の自己資本が吹っ飛ぶ」**2%なら全銀行の事実上の破綻です。一番国債を買っているのは銀行だからです。次は生保。なけなしの掛け金がパーです(T_T)。これが起こる前にヘッジファンドはギリシャにしたことと同じ事を日本に仕掛けます。CDSの空売りと円の空売りです。これがいつ起こるのか？私は5年くらい先と考えていましたが、そんなに悠長に構えていられない、と感じます。

常識的に考えれば消費税は20%。年金、医療費カット、公務員給与の大幅カット、相続税の増税。これくらいが必要です。しかし、ねじれ国会ではこれらの政策はまず通らない。

あまりにも行き過ぎた悲観主義でしょうか。私には論理的に考えるとこうなるとしか思えないのです。ぜひ皆様のご意見を伺わせてください。私もそうならないことを祈っているからです。



←熱中症にはくれぐれもご用心ください

次回は8月初旬ですね。夏真っ盛り。大好きな季節ですが暑さには弱い(笑)。

株式会社アール・リサーチ 代表 柳本信一

〒271-0051 千葉県松戸市馬橋 1896-1 ヴィレッジ K・I 馬橋 3F

Tel 047-342-3181 mobile 090-7428-8999 mail : ryubon@kkd.biglobe.ne.jp

<http://r-research.co.jp/> ブログ、毎日更新しています→<http://rresearch.blog103.fc2.com/>